平成２６年度 第３回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
（　概　要　）

１　開催日時
平成２６年１２月４日（木）　１３時００分～１５時００分

２　開催場所
中部森林管理局 名古屋事務所　会議室

３　検討内容
（１）　国有林材供給調整対策について
（２）　情報交換等
（３）　その他

４　検討結果
価格解析結果では、一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」ものと判断する。

５　委員意見等
・　市場では、原木はまんべんなく売れている。ただし、構造材ヒノキの流れが悪い。需要開発が必要かと考える。はけ口がなければ山側の生産をいくら調整をしても無理がある。
・　ヒノキが売れない原因として大壁工法になってしまったことも１つの要因。何も見えないのであれば集成材でも良いという考えがある。
・　輸入材が円安等の影響で価格上昇するのではないかとの見方もあり、国産材にニーズが向く可能性がある。そのニーズに応えるような対応が必要である。このチャンスを逃してはならない。
・　山側は１人当たりの生産量を上げるために高性能林業機械等を導入するなどし生産性を高め出材コストを押さえる。量を増やすことにより押さえ込んだ分だけ値段が安くとも損はしない。製材工場も大量の木材を仕入れることによって大量生産しコストが落ちる。安くても損にはならない。そんな一連の流れができれば国産材のシェアも伸びるのではないか。
・　国産材の需要拡大については在庫も関係する。内地材については在庫を持っているところはない。従って、急に需要があった場合には在庫切れとなることがある。これに比べ外材は埠頭材が多くあり、在庫が切れることはない。内地材の方が不安定であるということ。